



華陽女子学園・岐阜女子大学 ～ 70年の歩み～

Vol. 1 華陽女子学園から岐阜女子大学へ

平成 29 年 10 月 28 日





関屋 龍吉先生

岐阜女子大学名誉顧問

文部省社会教育局長を歴任し、岐阜女子大学設立に多大な支援をいただいた。お茶の水家庭療理事長（杉山高賢を理事として招聘、以後本学の教育事業への影響大）。中興4代新七（杉山新一）は明德小学校卒業とともに東京開成中学校に入学することになり、父杉山高賢と親交のあった関屋龍吉氏宅から通学していた。

関屋龍吉氏はかつて視察したドイツの青年運動、デンマークの国民高等学校の教育制度の研究などをもとに、「まん中を歩こう」「土台石になろう」をモットーに社会教育を展開し、「社会教育育ての親」と言われている。

また1926年（大正15年）アメリカとの交流のために日本の子どもたちに送られた「青い目の人形」（Friendship Dolls）の答礼として日本の人形が送られることになったが、1927年（昭和2年）、その答礼人形をアメリカに送り届けたのが関屋龍吉氏である。

1886年～1976年 岐阜県大垣市出身。



大橋 廣先生

岐阜女子大学名誉顧問

日本女子大学第5代大学長（1947年（昭和22年）4月～1956年（昭和31年））を勤め、1949年（昭和24年）に日本家政学会を設立し初代会長を務めた（1949年（昭和24年）10月30日～1952年（昭和28年）3月31日）。植物学者・教育者としても著名である。

華陽女子学園に対して、女子教育の在り方について多くの助言を与え、また講演等を通して直接学生に指導に当たることも多々あった。岐阜女子大学の設立にあたっての支援に多くの時間を割き、校舎建築はもちろん初期のころの教員配置、大学運営など多くの面で献身的に援助をいただいた。

戦後の女子教育及び近代的な高等教育に常に先進的で広い視野に立った方向性を示し、それまで技術面が重視されていた家政科指導に科学的展開の必要性和文化芸術にも配慮することを提言していた。

本学には「岐阜女子大学創立の歌」が存在するが、その曲を一晩で作詞したことが言い伝えられている。

1882年3月18日～1973年2月20日。岡山県倉敷市出身。



※大橋先生の地元倉敷で撮影された大橋廣先生と杉山新一先生。



※岐阜県大垣市スイトピアセンターの庭にある関谷龍吉先生謝恩碑。



※華陽女子学園創始者杉山新七(高賢)。現在の「華陽学園」の基盤を作られた方である。



※岐阜女子大学副理事長杉山糸子。華陽女子学園創設者杉山新七(高賢)夫人。



※岐阜女子大学創設者及び初代理事長杉山新七(新一)。写真は、「みなもと会」で着用される和服姿を描いた。



※新年を迎えて、伊奈葉神社にて初詣に来られた杉山新七(新一)先生と杉山悠紀子先生。



※華陽女子学園正門前。



※開学当時の華陽女子学園の様子。左が玄関。右が料理教室。2階は寄宿舍として使われていた。現在の杉山ビルの位置にあった。



※初期の杉山ビル(南東より望む)。
2階は教室。3・4階はアパートとして使用されていた。



※初期の杉山ビル(北東より望む)。
この時は、ビルや本宅からの中庭を眺めることが出来る。



※ 4階建ての新校舎。1階は、料理教室と総務。2階は、洋裁教室。3階は、和裁教室。4階は、ホール。屋上で毎朝、朝礼が行なわれていた(昭和40年)。



※ (HM・・・HOME MANAGEMENTの略) 第10回HM講座。当初は、岐阜新聞社で行われていたが、新校舎完成後はこの校舎で行われた。この時に講演して下さったゲストは相馬雪香先生(昭和41年6月25日)。



※当時の杉山ビル。左の看板に「華陽女子学園」と記載されている。



※華陽女子学園時代の料理教室。3階建ての建物の一階に存在していた。

当時では、最新式のガス湯沸かし機を使用しており、どの料理学校よりも整っていた。

また、岐阜調理士協会の料理人(和食専門)および長良川ホテルの Cock 長(高相氏)による指導を受けた。



※華陽女子学園時代の料理教室



※華陽女子学園第二校舎(和裁の部屋)での和裁の実習風景。



※家庭科室での日本料理調理実習(華陽女子学園)。これが現在の管理栄養士の起源である。



※家政学科の和裁の授業(華陽女子学園)。畳が敷かれており、そのうえで真剣に和裁に取り組まれている当時の学生の方々。



※長良川ホテルのシェフをお招きして、調理指導を受ける。OGの方々。クリスマスやお正月などのメインイベントにお越し頂いた。



※家庭科室での日本料理調理実習(華陽女子学園)。これが現在の管理栄養士の起源である。



※第2校舎で東海桂州先生による茶道の指導を受ける当時の学生の方々。



※茶道の授業で、川瀬ふみ先生にご指導を受ける。



※第1回華陽女子学園入学式。花嫁学校という事で、入学された方も少人数で、先生方も少なかった。



※華陽女子学園七夕祭。後列右側に高賢先生。前列中央は糸子先生。
現在の岐阜女子大学では、七夕祭の際に、流しそうめんとにんじんしりしり（沖縄の伝統料理）を沖縄県人の学生さんがふるまう。



※正月二日に杉山家に集まって新年のご挨拶。



※正月二日の新年会。当時在籍していた学生さん方がおせち料理とお雑煮を振る舞い、揃って新年を迎えたそう。高賢先生をはじめとする関係者の方々も御参加された。



※前列には高賢先生、糸子先生、当時の副校長先生、川瀬ふみ先生が参加されている。



※華陽女子学園卒業式。



※華陽女子学園卒業式。校舎の前で記念写真。左が和裁教室。
右が洋裁教室である。



※昭和 26 年度の卒業式。証書授与は杉山新七(高賢)先生。
このように和室で執り行われることは珍しかった。証書には、担当さ
れた教員の自筆の署名が記載されている。



※昭和 32 年度第二校舎で行われた卒業式。授与は、杉山新七(高賢)先生。



※昭和 42 年度第 22 期生卒業式。



※昭和 46 年度第 26 期生卒業式。



※当時の岐阜市長松尾吾策氏の講演(昭和 40 年 6 月 18 日)。



※講演中の杉山新七(新一)先生。



※華陽女子学園から岐阜女子大学へ移行時第24期生の卒業式の写真。最前列左から一番目の女性は、後藤秀園先生。



※糸子先生と卒業生の方々(昭和 36 年 3 月)



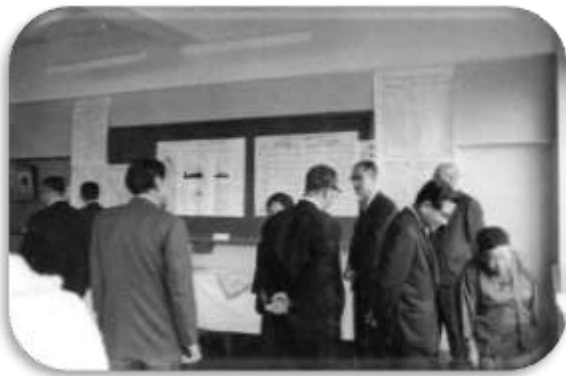
※生徒の作品発表会を兼ねて行われたファッションショー



※岐阜女子大学第1回入学式(昭和43年4月)



※華陽女子学園移設時の貢献された方々。



※文部省の方々による視察風景(大橋廣先生、杉山新一先生、杉山糸子先生)。



※大橋廣先生、杉山新一先生、杉山糸子先生、小木曾学長、岡本太右衛門氏



※地鎮祭に参加される大橋廣先生、杉山新一先生、岡本太右衛門、田中弁護士、関係者各位。



※御祈祷される神主様と関係者一同その①



※御祈祷される神主様と関係者一同その②



玉串奉奠する杉山新一先生。



※玉串奉奠する関係者一同。



※岐阜女子大学第1回竣工式



※岐阜女子大学第1回さざ草祭
祝 校舎落成式



※文部大臣の訪問(昭和51年4月11日)。



※当時の文部大臣永井道雄氏。



※永井道雄文部大臣スピーチ。



※文部省関係者。

資料集について

岐阜女子大学は平成 30 年（2018 年）に創立 50 周年を迎えますとともに、華陽女子学園が創立された昭和 21 年（1947 年）から 70 年となります。

華陽女子学園同好会を開催するに当たり、昨年にかけて当時の様子を振り返っていただくために杉山家に保存されています資料をお借りしてその一部をまとめました。この冊子には、創立・運営にご尽力いただいた方々、校舎、授業・行事、そして新しい岐阜女子大学設立及び開始の様子にまとめました。

この作業は、今日、本学が目指していますデジタルアーカイブ資料収集の一例と言えます。本年度はこれらの映像資料のほかに、田中陽治先生ご協力により学園歌の CD を作成することが出来ました。有難うございました。学園歌のメロディーをお聞きいただきますと、一層当時を思い出していただけるものと思います。

この資料集を作成するに当たり、貴重な資料をお貸しいただきました杉山家にあつくお礼申し上げます。

また資料のデジタル化に当たり、長期間にわたってアルバム、関係文書をスキャナで読み取る作業、画像を補正する作業、テキスト化する作業等デジタルアーカイブに求められる一連の業務は杉山新史氏に担当していただき、さらに本冊子の編集作業も行っていました。

平成 29 年 10 月 28 日

編集担当	岐阜女子大学 50 周年記念事業担当	杉山 新史
	岐阜女子大学 教授	佐藤 正明